



リスペクト型マネジメントとは何か？ ～組織改革の4つの視点～

多機能化と地域共創へのチャレンジのために、リスペクト型マネジメントの4つの視点を取り入れ、アプローチを進めてみましょう。

視点

1

語り合う風土・ ミッションの共有

保育の質の向上と人材育成を考えるうえで重要な第一の視点は「語り合う」風土にあります。経験年数や立場を問わず、職員間で気軽に子どもの姿を語り合うことができる雰囲気があることです。そこからミッションの共有も生まれます。

- 気軽に子どものことを語り合える雰囲気
- 職員の声を聴くボトムアップ型のリーダーシップ

職員一人ひとりの良さ・ 個性の尊重

視点

2

職員にとって「心理的安全性」が保障される職場であることが大切です。職員一人ひとりの良さや個性が重視され、自分の存在意義が実感できる職場であること、できるだけその人の強みや良さに着目していくことが重要です。

- 職員の心の安全基地
- 一人ひとりの得意なこと・強みに着目して、良さが活かされる組織

視点

3

個々を活かす 働き方の マネジメント

働き方を改革し、保育の質を高めていくために、時間管理のマネジメントが必要となります。また、保育の場には子育て世代や介護世代、パートタイム勤務の方など多様な職員が勤務しているので、個々を活かす働き方のマネジメントが求められます。

- 働き方改革
- 時間管理のためのマネジメント
- 多様な職員を活かすマネジメント

視点

4

外部（家庭・ 地域、自治体）との 協働的かわり

家庭や地域とのより良い連携が生まれるために、園からの発信と対話が大切になります。保護者や地域関係者が園の理解者・協力者（ファン）になっていくには、保護者・地域へのリスペクトも重視されます。

- 園からの発信と対話
- 保護者へのリスペクト
- 地域に園を支えるファン（協力者・理解者）を形成